

でんきと私

石川県立小松工業高等学校 電気科 1年

新田 匠悟

私の父は、電気配線の仕事をしている。幼い頃の私は興味があり、面白そうな仕事と思っていた。しかし、小学校、中学校と年齢が上がるにつれ、将来の夢について考えるようになった。そして、中学生の私はどんな職業に就くかを考え、父と同じ電気関係の仕事に就こうと思った。

それから、私は父と同じ職業に就くため、工業高校に入学した。高校に入学して数か月後、一つの壁にぶつかった。第二種電気工事士である。初めて問題を見たとき、これを合格するのはとても難しいと思った。それと同時にこの試験に受ければ父と同じ職業に就くことができる。頑張ろうと思った。

初めは全然分からなかったが、先生に教えてもらって少しずつ、分かるようになった。覚えることがたくさんあり大変だったが、なんとかこなすことができ、無事筆記試験を合格することができた。

しかし、次の壁にぶつかった。実技試験である。実技試験を合格しないと第二種電気工事士の資格を取得することはできない。実技試験は筆記試験より明らかに難しい。それでも私はこの資格を取得したいと思い、精一杯の努力をし、放課後も残って練習に取り組んだ。本番は緊張すると思うが、納得できるまで勉強したので悔いが残らないように頑張りたい。

電気の知識はこれからの人生で、絶対に役に立つ。私は人の役に立つ人間になれるようにこれからの高校生活を送っていきたい。

